



株式会社 **乃村工藝社**

2014年度 第2四半期 決算補足資料

2014 年度 第 2 四半期 連結決算概要

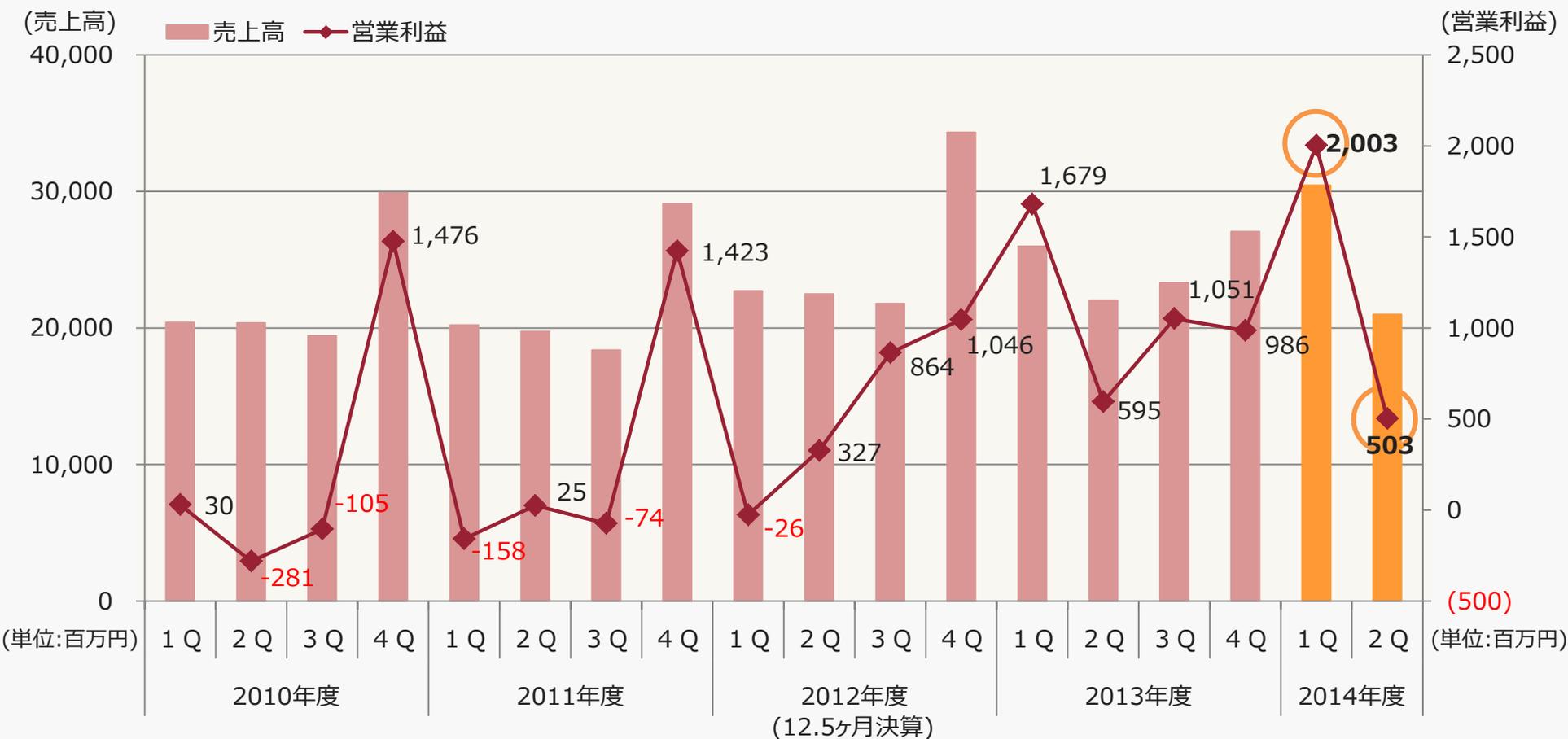
2014年度 上期連結業績ハイライト

- 3月末の駆け込み需要に加え、第2四半期に想定していた消費増税の影響が軽微であったため、7月に修正した業績予想をクリアし、前年同期と比べて増収増益を確保した

(単位:百万円)	2013年度	2014年度		
	上期実績	上期予想 (7.8修正)	上期実績	前年同期比
売上高	48,027	51,000	51,446	7.1%
営業利益	2,274	2,200	2,507	10.2%
経常利益	2,275	2,250	2,629	15.6%
当期純利益	1,083	1,300	1,531	41.3%

売上高・営業利益の四半期推移

- 第1四半期は、前期からの期ずれした大型案件の計上や3月度の売上拡大などによって想定より売上高が増加し、総利益が増加した結果、営業利益は好調だった前年同期を上回る実績となった
- 第2四半期は消費増税の影響もあり、前年同期に比べ若干の減益となった



売上総利益率の四半期推移

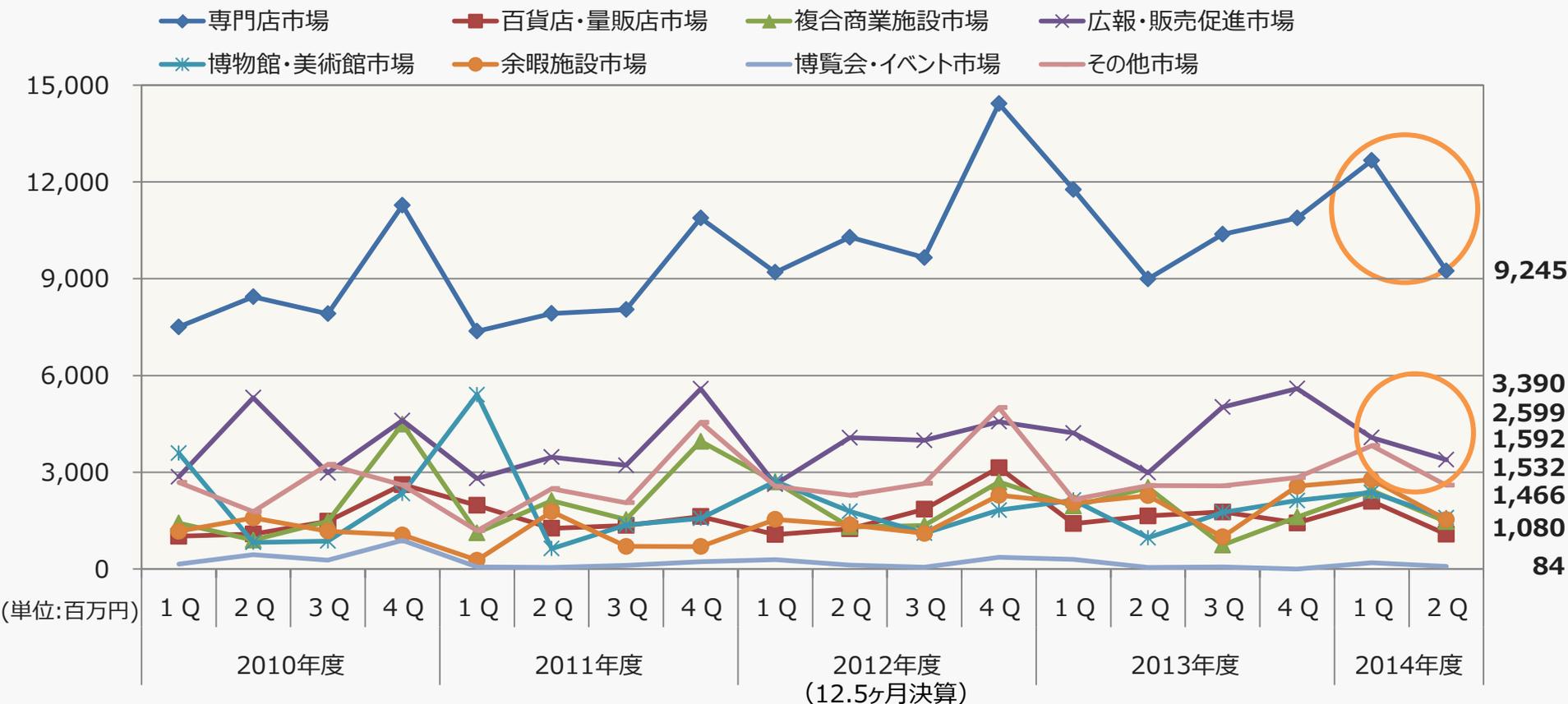
➤ 採算性を重視した受注および原価管理の徹底により、第2四半期に想定していた総利益率を上回った

◆ 売上総利益率



市場分野別売上高の四半期推移

➤ 主力市場である専門店市場、広報・販売促進市場ともに消費増税の影響を懸念していたものの、前年同期の売上水準を確保することができた



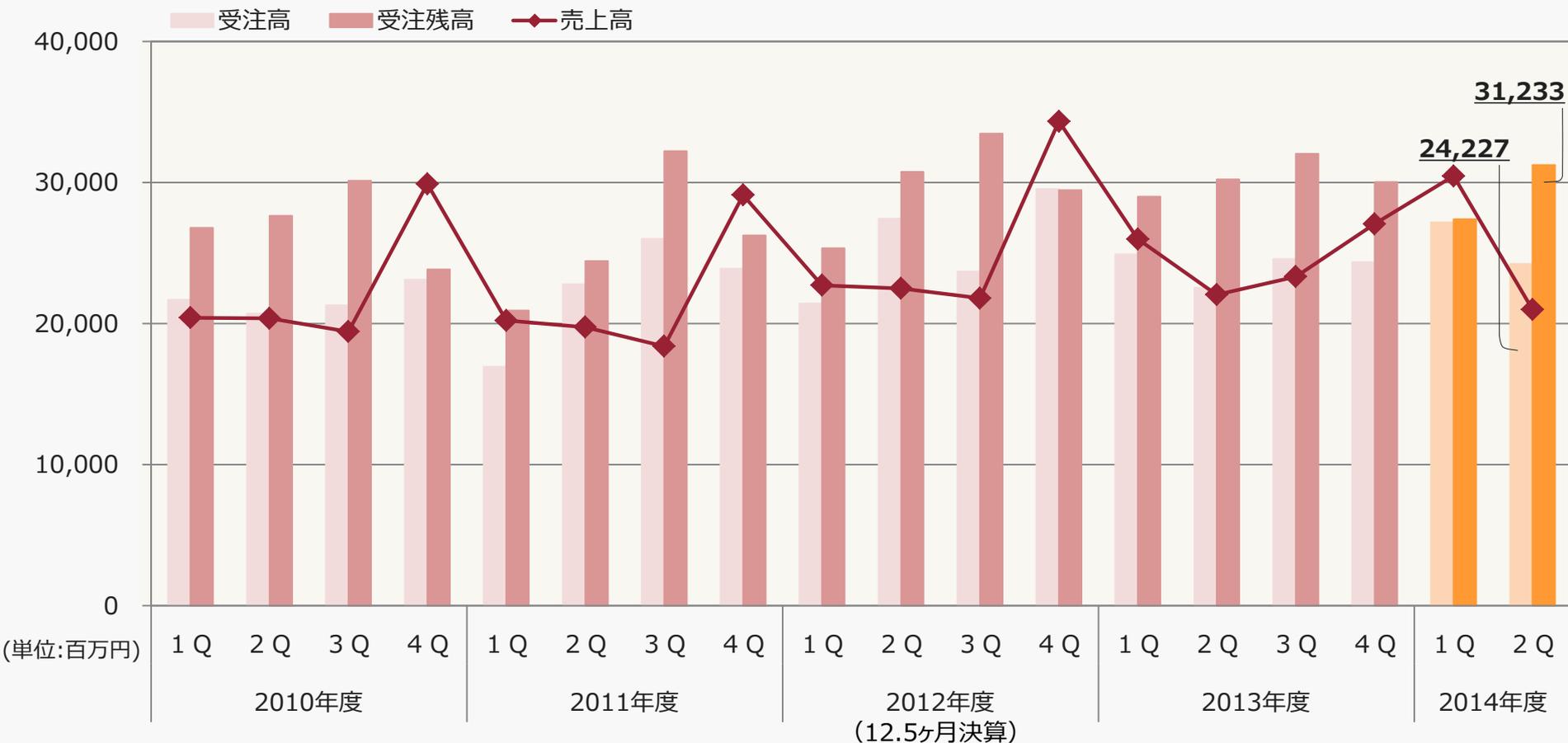
(注)不動産事業と飲食・物販事業はその他市場に含み、掲載しています。
 なお、2014年度第1四半期より不動産事業は子会社の売却により除外しています。

市場分野別の状況

＜第2四半期＞ (単位:百万円)	2013年度		2014年度		売上構成率		ポイント
	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比	前期	当期	
専門店市場	20,758	6.5%	21,912	5.6%	43.2%	42.6%	モバイル関連店舗の什器等の大型案件のほか、大都市圏の百貨店、大型商業施設の改装にともなうアパレル店舗、インポートブランドの改装を手掛け増収となった
百貨店・量販店市場	3,062	31.8%	3,180	3.9%	6.4%	6.2%	首都圏の百貨店の改装を手掛け、増収となった
複合商業施設市場	4,479	11.9%	3,902	△12.9%	9.3%	7.6%	主要駅に隣接する大型複合施設や商業施設の新装・改装を多数手掛けたが、前年同期に大型案件の売上計上があったため減収となった
広報・販売促進市場	7,201	7.4%	7,466	3.7%	15.0%	14.5%	電機、通信、住宅関連などのショールームやコンベンションなどの展示制作のほか、大量生産に対応した販売促進什器の制作を手掛け、前年同期に比べ増収となった
博物館・美術館市場	3,107	△31.0%	3,969	27.7%	6.5%	7.7%	自然史系博物館、科学博物館などの改装を手掛けたほか、指定管理者制度による博物館の運営管理を推進し、前年同期に比べ増収となった
余暇施設市場	4,319	48.4%	4,310	△0.2%	9.0%	8.4%	都内の大型ホテルの新装・改装が完工したほか、キャラクター系のアミューズメント施設などを多数手掛けたが、前年同期に複数の大型案件が完工したため減収となった
博覧会・イベント市場	348	△16.2%	278	△19.9%	0.7%	0.5%	姫路城の公開施設の運営などを手掛けたが、公共イベントの減少傾向が続いており減収となった
その他市場	3,406	△14.5%	5,179	52.1%	7.1%	10.1%	ブライダル施設、企業オフィスのほか、富裕層向けの邸宅などの幅広い分野を手掛け、大幅な増収となった
ディスプレイ事業 小計	46,682	5.3%	50,199	7.5%	97.2%	97.6%	
不動産事業	240	5.1%	—	—	0.5%	—	3月31日に不動産事業をおこなう子会社を売却
飲食・物販事業	1,104	72.6%	1,247	13.0%	2.3%	2.4%	博物館のミュージアムショップなどの飲食・物販店舗を運営、高速道路のSAの店舗の売上拡大により増収となった
合計	48,027	6.3%	51,446	7.1%	100.0%	100.0%	

受注高・受注残高の四半期推移

- ▶ 第2四半期の受注高は、顧客企業への消費増税の影響を懸念していたものの想定より軽微であり、受注環境が堅調に推移した
- ▶ 受注残高は、下期に向けた案件が第2四半期に積みあがったことにより高い水準を確保している



市場分野別の受注高・受注残高の状況

- 受注高は、専門店市場においてアパレル・ブランド店舗、モバイル店舗の需要が伸びたこと、複合商業施設市場において首都圏の主要駅の周辺開発にともなう商業施設の新装・改装を数多く受注したことにより前年同期に比べ8.3%増加した
- 受注残高は、余暇施設市場、その他市場においてホテル、アミューズメント施設、ブライダル施設などの大型案件の売上計上があったものの、主要駅の周辺開発にともなう商業施設の受注が伸びたことにより前年同期に比べ3.3%増加した

＜第2四半期＞
(単位:百万円)

	2013年度		2014年度		受注高 前年同期比 増減率	受注残高 前年同期比 増減率
	受注高	受注残高	受注高	受注残高		
専門店市場	19,993	7,510	22,622	10,102	13.1%	34.5%
百貨店・量販店市場	3,392	1,308	3,166	1,486	△6.7%	13.6%
複合商業施設市場	2,353	2,269	4,598	3,317	95.4%	46.2%
広報・販売促進市場	9,086	6,869	9,046	6,064	△0.4%	△11.7%
博物館・美術館市場	6,312	5,751	6,012	6,368	△4.8%	10.7%
余暇施設市場	2,862	3,210	2,502	1,446	△12.6%	△55.0%
博覧会・イベント市場	243	245	313	183	29.0%	△25.3%
その他市場	3,216	3,060	3,136	2,263	△2.5%	△26.1%
合計	47,460	30,226	51,399	31,233	8.3%	3.3%

(注)不動産事業と飲食・物販事業は受注概念が異なるため、記載していません。

販売管理費の四半期推移

- 販売管理費は、将来の人手不足に対応する雇用形態の変更、賞与係数の増加などによる人件費の増加、子会社の家賃の増加などがあったものの、前年同期並みの水準で推移した



経費	783	753	776	993	736	654	684	776	805	795	793	1,091	824	842	819	1,016	907	834
人件費	1,927	1,906	1,891	1,921	1,943	1,903	1,937	2,105	1,829	1,797	1,842	2,566	1,749	1,984	2,030	2,379	1,903	1,988
販管費計	2,710	2,659	2,667	2,914	2,680	2,557	2,621	2,881	2,635	2,593	2,635	3,657	2,574	2,826	2,849	3,395	2,811	2,823

(単位:百万円)

連結損益計算書

＜第2四半期＞
(単位:百万円)

	2013年度	2014年度	前年同期比 増減額 (率)		ポイント
売上高	48,027	51,446	3,418	7.1%	専門店市場、百貨店・量販店市場の売上増加に加え、博物館の展示リニューアルを手掛けた博物館・美術館市場、オフィス、ブライダル施設、富裕層向けの邸宅が完工となったその他市場の売上高が増加したことにより増収となった
売上総利益(率)	7,676 (16.0%)	8,142 (15.8%)	466	6.1%	売上高の増加により総利益は増加した 総利益率は、消費増税の影響が期初の想定より軽微だったものの、前年同期に比べ0.2%低下した
販売管理費(率)	5,401 (11.3%)	5,634 (10.9%)	233	4.3%	将来の人員構成のための中途採用、賞与の引当増加、家賃の増加などにより前年同期に比べ増加したが、売上高の増加により販売管理費比率が低下した
営業利益(率)	2,274 (4.7%)	2,507 (4.9%)	232	10.2%	上期は消費増税の影響を懸念したものの、売上高が増加したことより総利益が増加、固定費の抑制効果もあり、前年同期に比べ10.2%の増益となった
経常利益(率)	2,275 (4.7%)	2,629 (5.1%)	354	15.6%	受取配当金の増加などにより前年同期に比べ15.6%の増益となった
特別利益	149	30	△118	△79.4%	前年同期は保有している有価証券の売却によるもの
特別損失	529	4	△524	△99.1%	前年同期はグループ子会社の固定資産の減損損失などによるもの
四半期純利益(率)	1,083 (2.3%)	1,531 (3.0%)	448	41.3%	特別損失等がなくなり、所得の増加にともない法人税が増加したものの、前年同期に比べ448百万円の増益となった

連結貸借対照表

(単位:百万円)		2013年度	2014年度 第2四半期	前期末比 増減額(率)		ポイント
資 産	流動資産	37,488	39,169	1,681	4.5%	前期末の仕掛の完工によるたな卸資産の減少、大型案件の売掛金回収により売上債権の減少があったものの、不動産事業をおこなう子会社の売却、消費税の還付などにより現金および預金が増加したため、16億81百万円の増加となった
	固定資産	21,989	16,222	△5,766	△26.2%	不動産事業をおこなう子会社の売却により有形固定資産が大幅に減少した
	資産合計	59,477	55,391	△4,085	△6.9%	
負 債 純 資 産	流動負債	26,443	21,950	△4,493	△17.0%	事業構造改革費用引当金の取り崩しや大型案件の完工による買掛金の減少などにより44億93百万円の減少となった
	固定負債	5,573	5,249	△324	△5.8%	繰延税金負債の減少などにより3億24百万円の減少となった
	負債合計	32,017	27,199	△4,817	△15.0%	
	純資産	27,459	28,192	732	2.7%	配当金の支払いがあったものの、四半期純利益の増加により利益剰余金が増加した結果、7億32百万円の増加となった
	負債純資産合計	59,477	55,391	△4,085	△6.9%	

連結キャッシュ・フロー計算書

＜第2四半期＞ (単位：百万円)	2013年度	2014年度	ポイント
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,090	3,163	前期業績賞与の支払、税金の納付等があったものの、四半期純利益の増加、消費税の還付に加え、売掛金の回収による売上債権の減少により31億63百万円の収入となった
投資活動によるキャッシュ・フロー	△84	4,536	子会社のシステム投資などがあったが、不動産事業の子会社の売却により45億36百万円の収入となった
財務活動によるキャッシュ・フロー	△631	△ 902	特別配当を含む配当金の支払いなどにより9億2百万円の支出
現金及び現金同等物の増減額	△2,777	6,786	
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,262	15,868	現金及び現金同等物は、前年同期末残高の82億62百万円から76億5百万円増加し、158億68百万円となった

2014 年度 連結業績予想

業績予想の修正について

➤ 上期の受注状況から下期の事業環境は堅調に推移すると見込んでおり、通期業績予想を上方修正

(単位:百万円)	2013年度			2014年度		
	通期実績	上期実績	下期実績	通期予想	上期実績	下期予想
売上高	98,410	48,027	50,382	105,000	51,446	53,554
営業利益	4,313	2,274	2,038	5,000	2,507	2,493
経常利益	4,381	2,275	2,106	5,200	2,629	2,571
当期純利益	1,845	1,083	761	3,200	1,531	1,669

2014年度 連結業績予想

➤ 営業利益、経常利益ともに2期連続の最高益更新を目指す

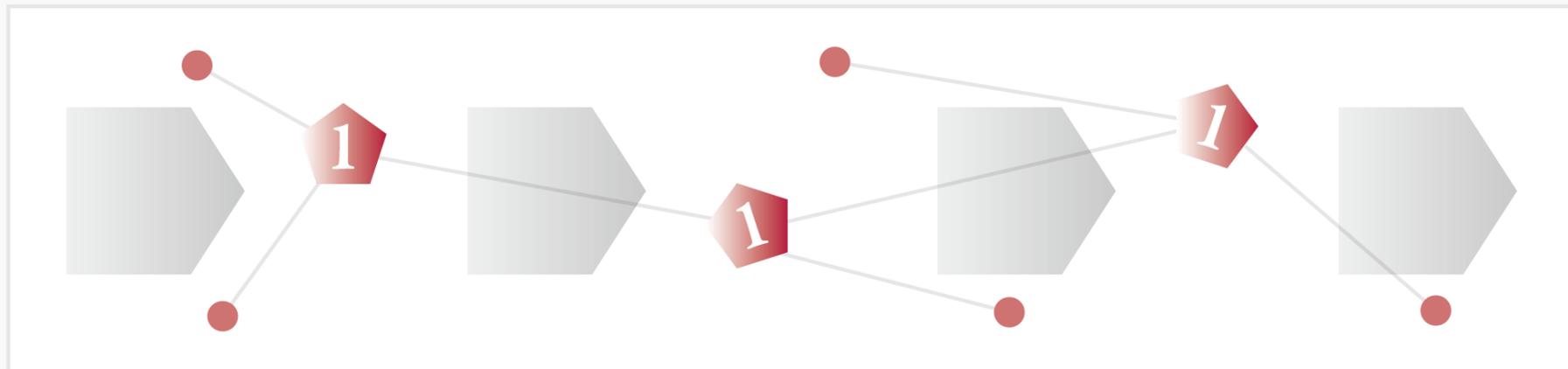
(単位:百万円)

	2013年度	2014年度(予想)
売上高	98,410	105,000
営業利益	4,313	5,000
経常利益	4,381	5,200
当期純利益	1,845	3,200
一株当たり当期純利益	33.09円	57.52円
一株当たり配当金	16.0円 (特別配当2円含む)	20.0円
自己資本当期純利益率(ROE)	6.9%	10.0%以上

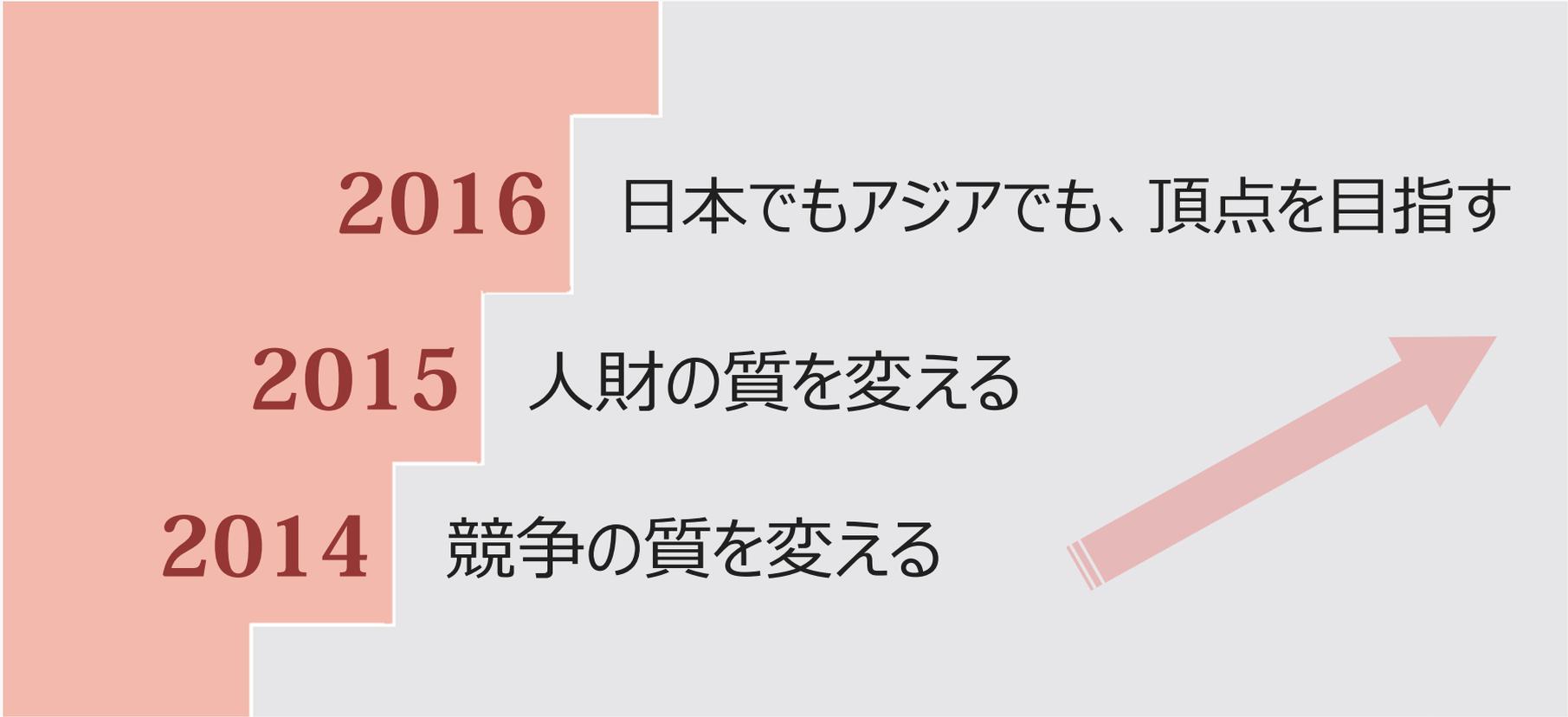
(注)実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

中期経営計画の事業戦略

ナンバーワンの価値の連鎖



業界No.1の機能と、将来No.1を目指す機能が生み出され、
必要に応じて個別に連携している状態

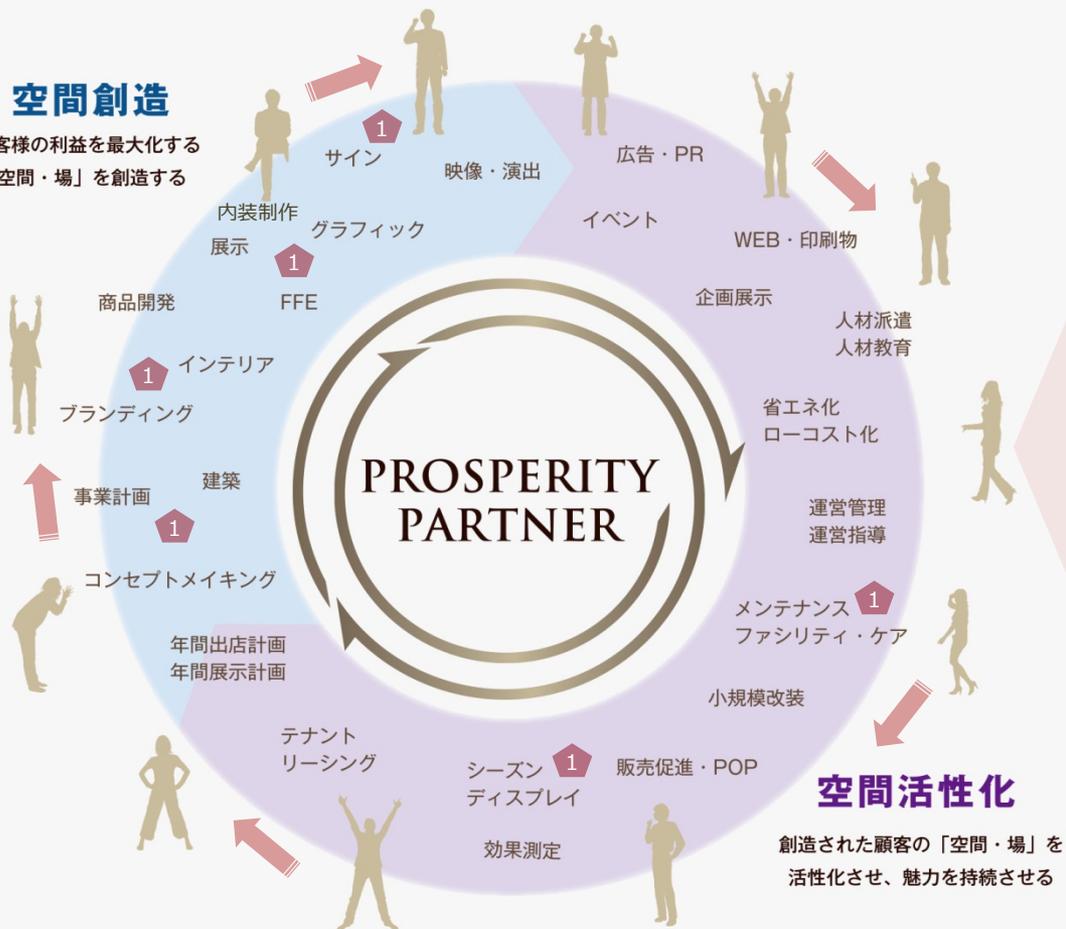
- 
- 2016** 日本でもアジアでも、頂点を目指す
- 2015** 人財の質を変える
- 2014** 競争の質を変える

空間創造→空間活性化の強化

“ナンバーワンの価値の連鎖”

空間創造

お客様の利益を最大化する
「空間・場」を創造する



＜2014年度：競争の質を変える＞

乃村工藝社（空間創造系）

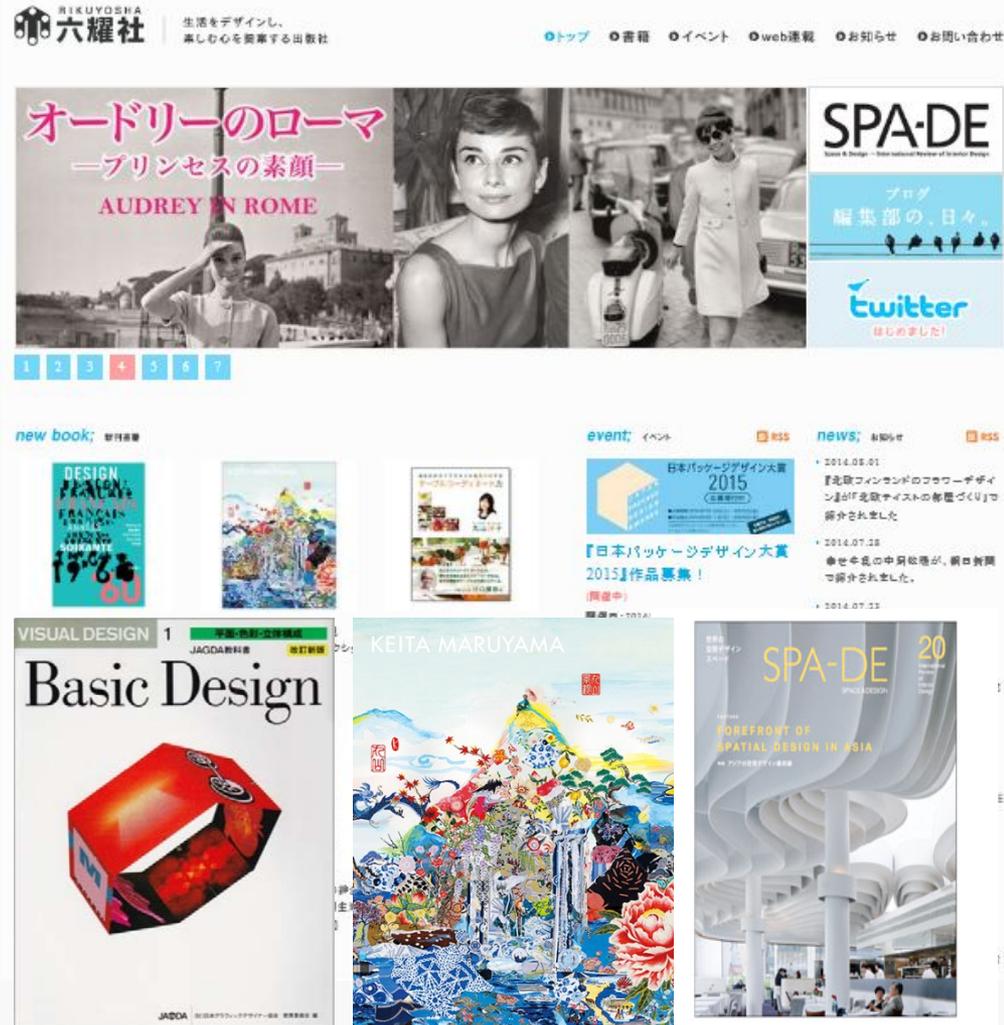
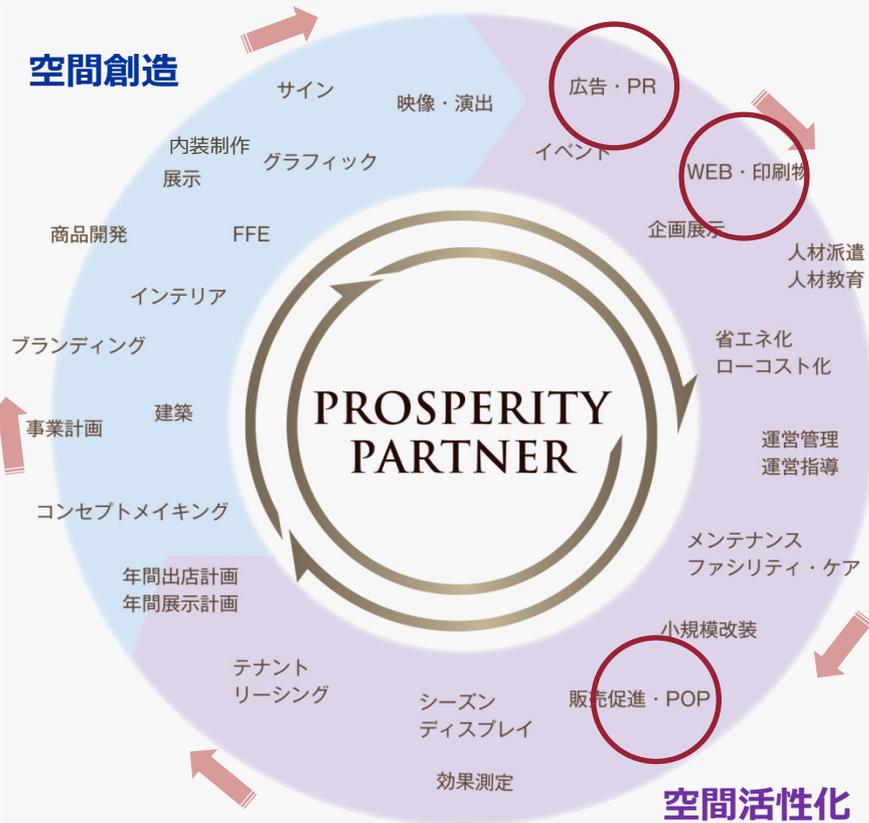
+

グループ会社 11社

・空間創造系 4社（海外含む）

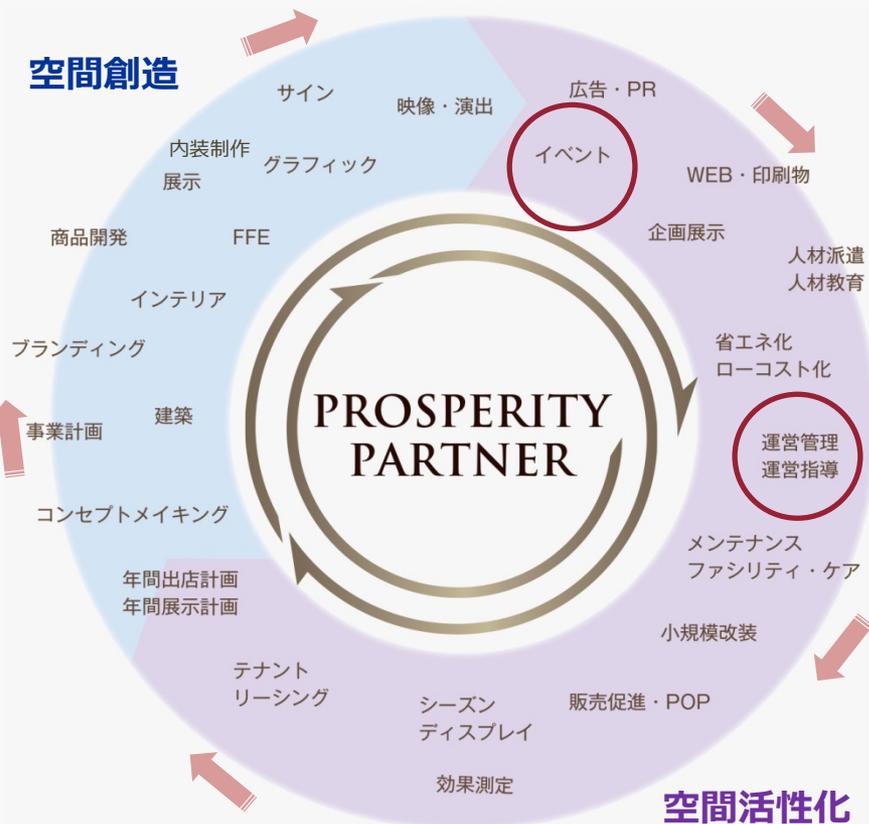
・空間活性化系 7社

7月25日 (株)六耀社(りくようしゃ)を子会社化



スポーツ文化・イベント分野へのチャレンジ

「スポーツ文化が活きるまちづくり」提案



■ スポーツを楽しむまち（8月5日開催）



■ 健康・スポーツ文化が活きるまちづくり（9月9日開催）



中期経営計画 業績目標

(単位：百万円)	2014年度 (予想)	2016年度 業績目標
売上高	105,000	120,000 以上
営業利益	5,000	6,000 以上
経常利益	5,200	6,100 以上
当期純利益	3,200	3,600 以上
一株当たり当期純利益	57.52円	64.5円 以上
ROE (自己資本当期純利益率)	10.0% 以上	12.0% 以上
ROA (総資産経常利益率)	9.0% 以上	10.0% 以上

(注)実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。